

※写真は九州地域づくり協会より転写したも

施設名	旧玉名干拓施設								
所在地	熊本県 玉名市横島町外								
管理者等	※確認中								
施設種類・分野	海岸			樋門・閘門					
施設概要 (明治期との関連含む)	<p>干満の差の大きな有明海に面した玉名地方では、江戸時代から精力的に干拓が進められ、その後期には文化4年(1807)の一番開から慶応2年(1866)の十番開までの新田が造成された。このうち、十番開(旧堤防)の遺構が約1kmに渡って残っている。近代に入ると、明治26年(1893)に明丑開と明豊開、同28年(1895)に末広開、同35年(1902)に大豊開の干拓が次々と完成。</p> <p>度重なる潮害で決壊などの被害を受けたが、その都度補修・改修がなされ、昭和42年の国営横島干拓の完工により第一線堤防としての役割を終えた。その後大規模な補修が行われなかったため、結果的に往時のままの姿が保たれている。          〈九州地域づくり協会の土木遺産特集より〉</p>								
築造時期	明治中期			時期詳細	明治26年～35年完成				
関連人物	—								
関連企業	—								
トピックス (特徴的エピソード)	これらの干拓施設の中でも、明丑、明豊、大豊開の(旧)堤防は、高さ5～6mの石積堤防が約4kmも連なり、万里の長城を思わせる景観を呈している。明治期に起源を持つ干拓施設がこのような規模で残る例は他になく干拓の歴史を伝える遺産として注目を集めている。								
歴史的な遺産等の指定の有無等	—	選奨土木遺産(土木学会)	○	文化財(文化庁)	重要文化財	近代化産業遺産(経産省)	—	世界遺産(ユネスコ)	—
		その他の指定・認定			平成18年熊本県指定 重要文化財 (明丑、末広) 平成20年 末広、明丑、明豊、大豊開の4堤防、樋門などが土木学会の土木遺産に選定。平成22年6月に旧玉名干拓施設として国の重要文化財に指定。				
その他 (関連資料、文献)	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般財団法人九州地域づくり協会</li> <li>九州農政局</li> <li>玉名市教育委員会 文化課 (玉名市ホームページより)</li> </ul>								
管理者等のHP (URL等)									



■末広開(旧)樋門群(閘門×2基)まえひろみらき(まほろ)ひもんぐん

写真等